

近年の研究紹介

劔持 淑 研究室 2014.10.30

E・M・フォースターの研究

イギリス人作家 E・M・フォースター (1879-1970) のエッセイ集『アビンジャーの収穫』(*Abinger Harvest*, 1936) と『民主主義に二度喝采』(*Two Cheers for Democracy*, 1951) 及び小説『インドへの道』(*A Passage to India*, 1924) を主な手がかりに、作家が戦争と戦争の時代をどのように捉えていたのか、そして作家が模索した平和への道について考察中である。

【E・M・フォースターと二つの世界大戦—ヴァージニア・ウルフとの比較
第30回日本ヴァージニア・ウルフ協会全国大会 2010年11月7日】

エリザベス・ボウエンの研究

アングロ・アイリッシュ作家エリザベス・ボウエン (1899-1973) は二つの世界大戦を経た世代で、第二次世界大戦ではロンドン大空襲を経験している。戦争の時代を背景にした短編には、超自然的な時空間を創造し、そこに迷い込んだ登場人物のミステリアスな体験を描いた作品がある。ミステリー風ではあるが、登場人物の人生の謎をすべて解き明かしてくれるわけではない。戦争を生き延びた生者の物語かもしれないが、もしかすると死者の魂の物語を語っているのかもしれない。

【エリザベス・ボウエンの戦時中の二つの短編—「幽鬼の恋人」と「幸せな秋の野原」— *Persica* 40号, 11-23. 2013年】

受験生へのメッセージ

19世紀から20世紀のイギリス文化・文芸・社会に関心のある方は、
文学作品を通して時代の思潮を読み解いてみませんか。